

住友に入っていたなら今ごろ常務

宏池会会長時代に、「江戸英雄対談」の16回目として行われたもの。昭和二十一年からの知己だけに、和気あいあいのうちに大平の本音を見事に引き出している。江戸氏は現在、三井不動産相談役。

対談者 三井不動産社長・江戸 英雄

司会 「財界」編集部

日本はなにをなすべきか

江戸 例のニクソン訪中声明によって対中国問題がいろいろと論議を呼びましたね。大平さんは外務大臣もおやりになったし、外交政策には非常に敏感でいらっしゃる。

大平 いやいや……。

江戸 そこで早速、お伺いしたいんですが、この米中接近と日本の立場ということについては、どのように考えていらっしゃいますか。

大平 そのニクソン訪中声明に関しては、まずはっきりといえることは、この問題はアメリカと中国との間柄の問題であるということですね。つまり、主権国家として、アメリカが中国に対してどう

するかという問題、北京はアメリカに対してどうかまえるかという問題でありまして、少なくとも直接、日本の問題ではないということです。

江戸 日本の世論のなかには今回のニクソン訪中発表が、日本の頭ごしに行われたということであるとやかく言われていますね。

大平 たしかに、アメリカが日本に挨拶してから事を進めて欲しかった、という日本人の願望はあります。しかし、日本に挨拶するか、しないかも、両国がそれぞれの立場で考えることであって、日本についていえることは、挨拶がなかったといつてじだんだ踏んでも、始まらんと思っていますよ。いずれにしても、米中接近が現実に行われるんだということですから。好むと好まざるにかかわらず、アジアはそういう状況にあるわけです。

江戸 たしかにそうですね。

大平 ですから日本としては、こういう状況を、どう受け止めるかということが大切な問題で、冷静に日本の立場からの評価（米中接近に対して）を誤らんようにすれば良いんではないかと思うわけです。ニクソン声明について簡単にいうと、以上のように思うので、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ（と、やや演説調で）

江戸 また日本の置かれている立場というものは、ほかの西側諸国とはちよつと違いますからね。

大平 そうなんです、どうも日本の立場は英国やドイツと違つと思つ。たとえばドイツというのは、ソ連を意識し、その背後にヨーロッパとかアメリカを意識しておれば、中国をそんなに意識しないでもすむ国です。英国にしても、中国とは距離的にもへだたっている。ところが日本は米中ソという三大国間にあって、いちばんクロスネーパー（隣接）ですよ。

江戸 その通りですね。

大平　しかもそこで日本は生きていかなければならない。日本の名譽、生存、平和を守っていかなければならない。といって日本としては、中国ばかり意識しているわけにはいかないと思っんです。アメリカやソ連のことも考えなければならぬ。そこで考えなければならぬことは、米中ソという三大国のクロスネーパーという状況にあつて、日本はなにをなすべきか、なすべきでないか、ということ踏まえ、自主的な道を探求していくことではないでしょうか。

江戸　これからの日本は自らの進むべき道について、ますます真剣に考えねばならない時期が到来したといえますね。(江戸さんも真剣な表情で……)

大平　そうですね。今までは、少なくとも戦後の日本というのは、アメリカの庇護のもとに、アメリカの手引きで国際社会に復帰した。けれども、国際政治のテーブルというものに主体的に参加してちゃんとものを言ったことがない。しかしここへきて、ようやく日本はいや応なしに、坐るべきイスに坐らねばいかん、言うべきことを言わねばいかん、やるべきことをやらねばいかん、ということをしひしと感じます。まあ、あのニクソン声明を読んでからは、特に、これはえらい局面になつたという感じですね。(グッと腕組みをしながら……)

大蔵次官に身の上相談

江戸　なるほど。(しばらく間をおいて)ところで私が大平さんとお知合になつたのは、大平さんが大蔵省の給与局の第三課長をやっておられたころでしたね。

大平　昭和二十一年でしたね。

江戸（編集部に向い）その後、大平さんは池田（勇人）さんの秘書官になられたんですが、その池田さんにも私どもは大変お世話になりましたね。私どもの三井不動産というのは、池田構想によって、いや、そう言うとおかしいですが、池田さんのお智恵を拝借してできたんです。それはともかくとして大平さん、アルコールのほうはいかがですか。

大平 だめですね、アルコールは……。

江戸 若いころは飲まれたんじゃないですか。

大平 いや、それが飲めそうに見えて飲めないんですよ、見かけ倒しですな。

江戸 あなたは東京商大（現・一橋大学）を卒業なさって大蔵省へ入られたんですが、大蔵省は東大出身が多いでしょう。商大を出られた人は非常に少ないんじゃないですか。

大平 少ないですね。私も学生時代は役人になるつもりはなかったんですよ。学校も商大ですし、当然、実業界に行くつもりだった。ところが大蔵省のほうが先に就職が決まってしまったんです。

江戸 役人になられるつもりはなかった？

大平 そうです。（笑）しかし、人間の運命なんてわからんもんですね。当時大蔵大臣が高橋是清さんでしたが、大蔵次官は津島寿一さんでした。この津島さん、私の同郷（香川県）の先輩なので、私は津島さんのところに身の上相談に行っただんですよ。来年卒業だが進路をどうするか、実業界に行くとしてもどのような見当で行ったらよいか、と。

江戸 津島さんはなんておっしゃったんですか。

大平 いきなり「君は大蔵省に入れ」というんですよ。そこで私が「ほんとうですか」と聞いたら「ほんとうだ、他は受けなくてもよろしい、いますぐ約束する」といわれましてね。

江戸 大蔵次官の約束でしたら確かですね。

大平 ええ。そんなわけでその年の秋に決まってしまった。結局、民間会社に願書を出す必要がなくなってしまう、それで大蔵省へ行くことになったんです。

江戸 しかし、高文を受けられたのは役人になろうと思われたのではないんですか。

大平 役人になるためではなく、法律などという面倒な勉強は学生時代にやっておこうと思いましたが、大学二年のときに勉強する気になりましたんですが、なにか目標がなければいけない。そこで高等文官試験を受けよう……。

江戸 二年のときに合格された？

大平 いやいや、二年のときに発心して三年で受けたんですよ。そしたらヤマがうまく当たったんですね。通っちゃったんだ……。 (笑)

江戸 そりゃあ、たんへんな勉強家だったんだ。きつと…… (と江戸さん、しきりに感心の面持ち。)

大平さんと同じ年生れ (明治四三年三月生れ) で、民間会社に入られた人は、どんなポストになられていますか。

大平 だいたい常務クラスですね。私のクラスメートは、一流銀行、会社の常務クラスになっていきます。

学生時代はクリスチャン

もし大蔵省にお入りになっていなかったら、どこを志望……。

大平 おそらく住友に入ったかも知れませんが。というのは、私の生れたところは、香川県のいちばん西の村で、別子銅山の近くなんです。私は四阪島の製錬所の煙を見ながら通学したものです。それと、私、学生時代に住友本社にいた川田順という歌人の歌とか随筆が好きだった。とくにあの方の書かれた歴史物が好きで、二十数冊ぐらいありましたが、非常に丹念に読みましたよ。そのなかに『住友物語』というのもあったけど、とにかく住友という事業集団には個性的な雰囲気というか、伝統というようなものがありましたね。

江戸 いまでもありますね。

大平 それと、もう一つの理由は、住友には無教会派の内村鑑三先生の流れをくんだ人が多いんですよ。たとえば東大の総長だった矢内原（忠雄）先生がそうでした。矢内原先生も住友（別子銅山）に勤めていられたが、私なんか学生時代に、日曜日ごとに矢内原先生の家へ説教を聞きに行きました。私も少し変っていたんですが、このような無教会派の人が住友に多かったということも、住友志望のひとつの理由ですね。もっとも住友が採用したかどうかわかりませんが……。

江戸 大蔵省で約束されたくらいですから、お入りになれたでしょうな。

大平 おそらく、そういうことになったのではなからうかという気はしますね。

江戸 大平さんはいつころからキリスト教に関心を持たれたんですか。

大平 高松高商の一年のときでしたね。

江戸 なにかキツカケがあったわけですか。

大平 あるとき、内村鑑三先生の流れをくむ人の講演を聞いたのです。それがそもその動機です。教会へ通ったことかなんとかではないんです。いまはもう背教者みたいなもので行儀悪いです。

けれど、その当時は夢中になっとったんですよ（笑）。

江戸 農村伝道なんかはおやりになっただんですか。

大平 いや、農村伝道はやりませんでした。東京へ出てきて、全国の学生が集って説教を聞いたり、浅間山麓の沓掛というところで開かれた講習に参加したり……。それから神楽坂や道玄坂へ学生が行って辻説法をやるんですが、それについていったりして……。

イヤイヤ大臣秘書官に

江戸 ところで、大平さんが池田さんの秘書官をやられてから政界に出られたのは、どのような事情なんですか。

大平 池田先生のカバン持ちは、昭和二十四年の春から二十七年の秋まで、ちょうど三年半でした。秘書官というのは事務官と政治家の混成物みたいなものでしてね。ひとつの政務官なんです。だから普通の文官の服務規定に服しないで、政治活動もできるんですが、私は、大蔵省の事務官からなっただんです。

江戸 大蔵大臣秘書官は二度おやりになられたんでしょう。

大平 そうですね。二度目に任官する前までは、経済安定本部に公共事業課長という肩書で出向していたんです。

江戸 いまの建設省のやっているような仕事ですね。

大平 その当時は、戦争によってメンテナンスが悪かったので、河川は氾濫したり山は荒れている

という、ひどい時代でした。もちろん都市は焼野原。しかし私は、その仕事に情熱を感じていたんですよ。なにしろ、都市計画やら港湾施設や公共施設の整備などやるが多かったですからね。

江戸 そうでしょうね。

大平 そしたら一年ばかりたって、池田さんから呼び出しをくった。再び秘書官になれというんですが、私、もうカバンベンしてくれと断ったですよ。しかし、勝手に発令してしまわれちゃったんですよ。それで仕方なしに……。

江戸 池田さんとの、そもそもの御縁は……。

大平 私が大学を出て役所に入ったのは昭和十一年ですが、翌十二年に横浜の税務署長になった。そのときの直属の上司が池田さんでした。当時、東京税務監督局というのがありまして、池田さんはその直税部長だったんです。

江戸 直税部長というと、直接税のほうのポストだったですね。

大平 ええ。それで、池田さんが巡回にくるんですが、巡回で横浜へくるうちに仲良くなった。別に私が税金取りがうまかったわけではないですよ（笑）。

江戸 当時の池田さんは、どのようなかたでしたか。

大平 仕事には非常に熱心な人でした。ただ、酒飲みでした（笑）。横浜へくると、「おい、どこか飲みに行かんか」なんていわれまして、よく縄ノレンをくぐったもんですよ。

江戸 私は、池田さんが国税課長のころかな。招待されて、一緒に宇佐見（伊豆）へ魚釣りに行っただんです。ところが魚釣りの前の晩に、宇佐見の薄汚ない宿屋で飲みあかしちゃってね。そしたら池田さんが「明日、魚釣りやめようや」というんですよ。そして「小田原の税務署長が飲んで行け、と

いうから、一緒に行こう」というわけで、箱根の湯本に二人で何本かの酒をもって行った。酒があま
りない時代でしたな。湯本に着いたら、なんと税務署長以下係長がたくさんきています。池田さ
んは、その人達をみんな知っていますね。家族や女房のことまで知っていて、「お前の女房はどうし
てる」とか「お前のところの家族はどうだ」と聞かれるんです。私が池田さんに「ずいぶん偉いん
ですね」と言ったら、池田さんは「いや、俺は頭が悪いけれど、全国の税務署長を知っているんだ。関
東地方の税務署なら係長まで知っているし、家族も知っている。これが俺の取り得なんだ」とおっし
やっていましたな（笑）。

大平 そうでしょうね。当時は、国税庁というのがなくて、大蔵省主税局というのがありましたね。
池田さんは主税局の国税課長。これは非常にえらいポストでして、大蔵省のなかでも中心になるポ
ストですよ。それになられたんだから、池田さんとしては、のちに大蔵大臣や総理大臣になるよりう
れしかったんじゃないですか（笑）。

政治家は負い目を持つ

江戸 大平さんが代議士になられたのも池田さんとの、そのようなご縁があったわけですね。

大平 秘書官の晩年に、代議士をやってみないか、という話になりましたね。それなら、代議士と
いうのは士がついた仕事だから、計理士とか税理士とか弁護士などというような自由業ですわ。だか
ら、決まった拘束時間もなし、外見的には案外ひまのように見える。

江戸 それで？

大平 だから、代議士というのも案外ひまかも知れん(笑)。しかし、そうではなかったんですな(大平さん、アツハハツハーツハーツと大笑い)

江戸 はたで見るとよりひまなものではなかったわけですね。

大平 ええ。ですから青雲の志があったわけではなく、たまたま、やれというから、じゃあ、やるかということをやったままですよ。

江戸 昭和二十七年に、いっぺんで当選なさったですね。

大平 ええ。二十七年の総選挙のころというと、追放解除後のしょっぱなの選挙でした。追放解除で、古い人と新しい人がこつた返して立候補した時でしたが、政界のひとつの変わり目でしたね。

江戸 (編集部に向い)今でも記憶しているんですが、茨城県で参議院の補欠選挙があった。私に保守連合で推薦するから立候補しないか、という話がありましたね。私は、あまりその気はなかったが、絶対に当選させるという。そこで、すでに代議士になられていた大平さんに、その話をしたんです。すると大平さんは「あんたが、もしその気になったら、私は、あんたの家の門前で大の字になるから、ひき殺してから立候補しろ」とおっしゃる。ですから私も、大平さんという人は、立候補の時によほど苦労されたんだな、なんて真剣に思ったりしましてね(笑)。

大平 それはやっぱり、江戸さんには三井不動産の江戸内閣を作っていたただいたほうが、よっぽど国のためになると思っただから……(笑)。それに政治家というのは、ある意味では非常に不安定。つまり、自分の稼いだ金で政治活動をやるわけではなく、多くの人々の喜捨というか、喜んで捨ててくれる金を受けて、自分の地盤を固めるPRなどをします。そのように人にいろいろと援助していただくと、非常に負い目を持つ場合がありますよ。

江戸 なるほど。

大平 ですから、江戸さんみたいな自由人で、独立心旺盛、誇り高き人は、元来、政治家には向か
んということですよ。第一、江戸さんの性格からして、政治家をやらせるなんて、あまりにも残酷過ぎ
ますよ。(と、やや強調するように……)

池田、佐藤両氏の相違

江戸 池田さんと佐藤総理との違い、あるいは共通点というようなものはどのような点ですか。お
二人とも五高出身ですね。

大平 (しばらく考え、やがて言葉をひとつひとつ探すように) まず、お二人とも同じようなキャ
リアで役人生活を経て政界に入られた。そして吉田(茂)さんの弟子だし、つまり政界における官僚
派ですね。そういう意味における処世術というのは、お二人とも、そうとう心得ておられたと思う
ですから次官になり、大臣になり、最後は首相にまでなられた。

江戸 そういう点はいへんな共通点ですね。

大平 しかし、どこが違うかといわれると、やはり顔が違うように違うんですね。たとえば(と、
ちよっと考えて)池田さんはポリシーマーキングというか、政策によかれ悪しかれ興味を持っていら
れた。佐藤さんのアプローチの仕方は人事ですね。どちらが良いということではなく、しいていえば、
アクセントの置き方が、池田さんは政策、佐藤さんは人事という点にあるんじゃないかという感じが
します。

江戸 アクセントの置き方の違いですね。

大平 それから、佐藤さんの立派な点は、信誼にたいへん厚い。弊履のごとく友達を捨てる人ではありませんね。池田さんも厚かった。それも共通してます。それと、物事に対するアプローチの仕方が、池田さんは八方破れというか、比較的あけすけ、佐藤さんのほうがある意味でスタイリストとまて言えないとしても比較的きちんとしている。決して断定はできませんが、しいていえばということであれば、そのへんの相違ではないでしょうか。

(昭、四六・九・一)